

平成31年度(令和元年度)

川内北小学校 「学力向上実行プラン」

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

研究テーマ

確かな学力を身につけ、自分の考えを表現できる児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長:小川陽子 教頭:山口洋之・元木宏治
 低学年推進員:四宮範子 中学年推進員:近藤恭子・日浦孝則
 高学年推進員:高木修・長谷部貴子 特別支援学級:美馬尚子

校長

小川 陽子



児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	①学年に応じた読み・書き・計算などの基礎的・基本的な力を確実に身に付けている。 ②家庭学習の習慣が身に付いている。	①全国調査・ステップアップテストの基本的・基礎的な項目において、平均正答率が県平均以上である。 ②宿題を必ず行い提出できる。(90%以上)			
課 題	基本的な学習習慣が身につけておらず、学習の積み上げができていない児童がいる。学習の習熟度に開きがあり、学力の二極化傾向がみられる。	①朝の活動や授業の中で、継続的に復習を行い、漢字・計算の小テストを定期的に行う。 ②学習形態の工夫、板書、発問、ノート指導の充実を図り、分かりやすい授業づくりに努める。 ③全学年の学習や現学年の既習内容を振り返るプリントを効果的に宿題に加える。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①朝の活動や授業の中で、継続的に復習を行い、漢字・計算の小テストを定期的に行う。 ②学習形態の工夫、板書、発問、ノート指導の充実を図り、分かりやすい授業づくりに努める。 ③全学年の学習や現学年の既習内容を振り返るプリントを効果的に宿題に加える。	①月4回以上漢字・計算の確認テストを実施する。 ②授業の初めには、めあてを明示し、終わりにはまとめと振り返りをする。 ③宿題に前学年の学習や現学年の既習内容を振り返るプリントを出す。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	見通しのつく課題には真面目に取り組み、授業中に感想や意見を発表したり書いたりすることができる児童が増えつつある。	①自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら、説明したり書いたりしている。 ②進んで読書をしている。			
課 題	既習事項と経験を結びつけて考えたり、言葉で説明したり、自分の考えや思いを筋道を立てて分かりやすく書いたり説明したりすることに課題がある。	①作文読本や新聞・日記を活用し、「書く力」を向上させる。 ②各教科等の指導の中で、自分の考えやその理由を発表したり書いたりする機会を設ける。 ③読書活動や読み聞かせを定期的に行い、活字に触れる機会を増やす。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①作文読本や新聞・日記を活用し、「書く力」を向上させる。 ②各教科等の指導の中で、自分の考えやその理由を発表したり書いたりする機会を設ける。 ③読書活動や読み聞かせを定期的に行い、活字に触れる機会を増やす。	①作文読本を活用し、又学年に応じて、課題や行数を指定し、根拠を明確にして、自分の意見を書く日記・意見作文を宿題として書かせる。 ②1日に1回は必ず自分の意見や考えを発表する機会を設ける。 ③週1回朝の読書の時間を確保する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	与えられた課題に対しては真面目に取り組む児童が多い。	課題や自主的な学習に意欲的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができている。			
課 題	自ら課題を見つけたり、課題解決に向けて主体的に取り組んだりすることが苦手である。家庭学習時間が短い児童も多く、自主学習の内容も画一的である。	「家庭学習の手引き」を活用し、自主的な学習ができた児童の割合を70%以上にする。		評価	次年度における改善事項
	具体的方策(教員の取組)	取組指標			
	①家庭学習の進め方や自主学習の進め方を示し、家庭学習の定着を図る。 ②主体的に対話的で深い学びのある授業展開ができるような授業の工夫を図る。	①学期に1回以上、学年だよりを通じて保護者に呼びかける。 ②教材研究に励み、研究授業を通して研修につとめる。			

平成31年度(令和元年度) 学力向上ロードマップ

